

大気汚染で空がくもり、洗たく物にススがつく。自動車の排気ガスで頭がいたくなり、気がイライラする。空飛ぶ飛行機の爆音で安眠ができない——初期の公害はザッとこんな程度であったが、次いで熊本や新潟に水俣病が出て来た。工場から流す有機水銀のたたりである。また、ペニール水銀を含む農薬からも公害が出はじめた。農薬は全国にバラまかれている。

一方で富山の神通川のほとりにイタイイタイ病患者があらわれた。川にたれ流しされるカドミウムが多年にわたって人間の体に蓄積された結果である。

人類の悩み

公害

公害は範囲をひろげ、激しく、深刻になった。いままで見たことも、聞いたこともない光化学スモッグ、母乳まで犯されているPCB汚染、ポリ容器を含むゴミ公害、石油時代といわれる現代文明に、石油の硫黄分が、人間やすべての生きものを侵害する。

これはひとり日本のみならず、全国的現象である。恐るべき公害。全人類の自覚と、反省と、発奮と、叡知と勇断のみが、よくこれに対処しうる。





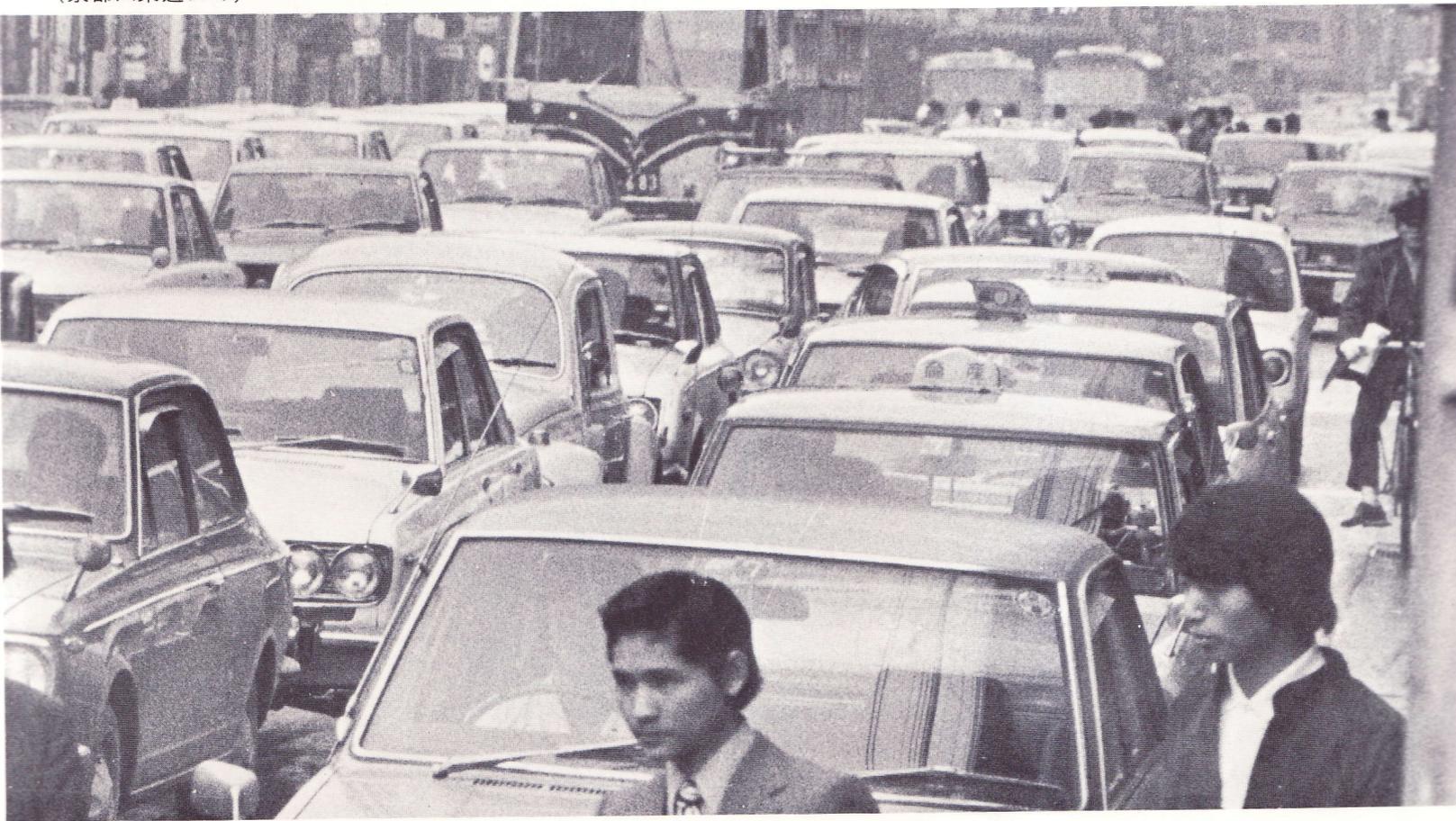
◀工場廃液がブキミな色で
びわ湖へ流れている

▲有害食品検査の話をも真剣に
耳を傾け見学中のママさんたち
(東京にて)

東海道新幹線に次いで、山陽
新幹線も開通したが、その騒
音や震動が改めて問題になっ
ている。滋賀県のある中学校
では、そばを走り抜ける新幹
線の音に授業もしばしスタッ
プという有様



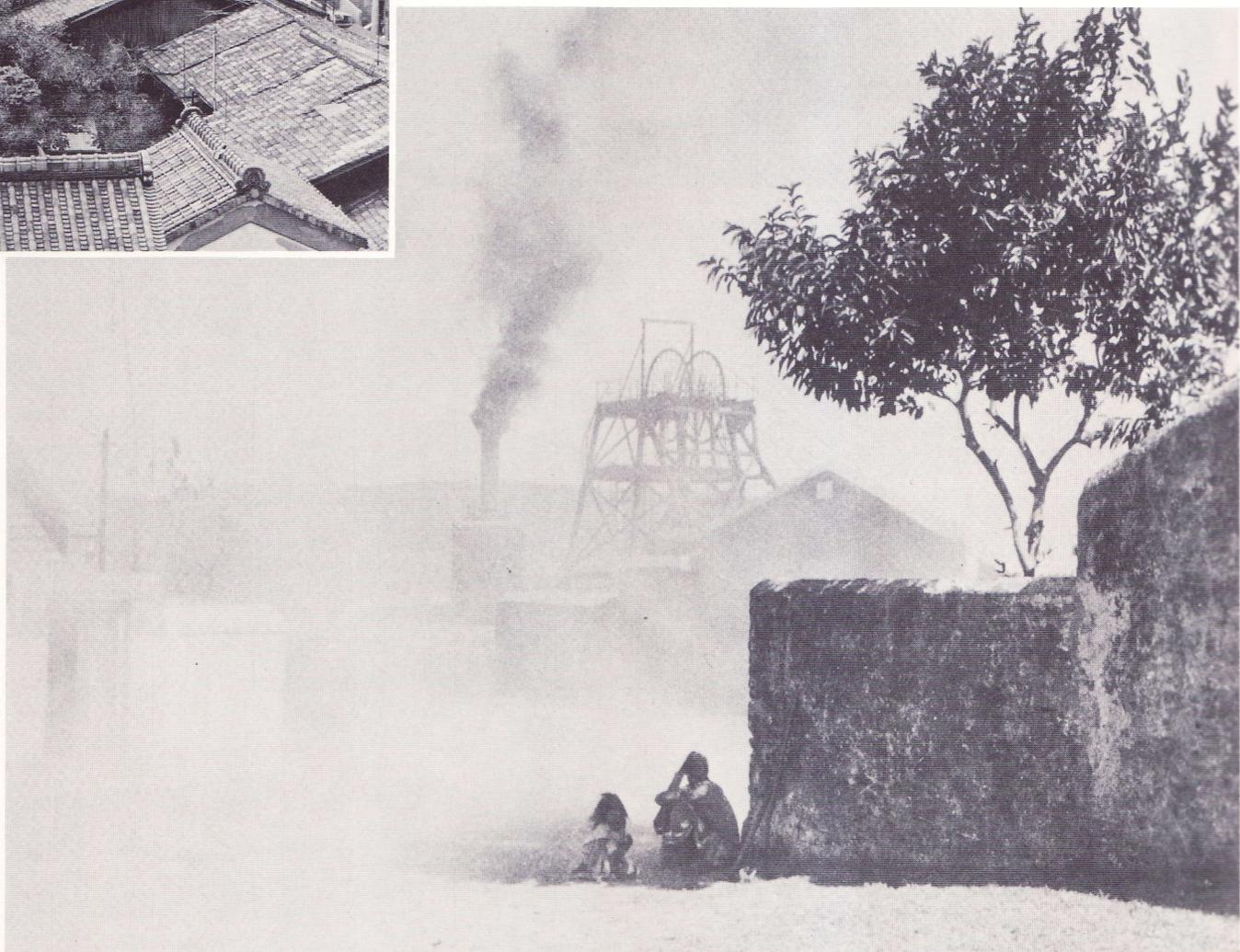
相変わらずの
自動車公害
騒音、排気ガス、そして
交通停滞、千年の古都と
いわれる京都も悩みは深い
(京都四条通にて)





◀ビル乱立のしわ寄せに
市民相談室への“苦情”
がふえる一方、日当り
が悪くなったビルの谷
間 (京都)

▼わたしたちの環境をけがし、自然な
僅少成分のバランスを変化させている
(インドの炭坑地域の塵埃)

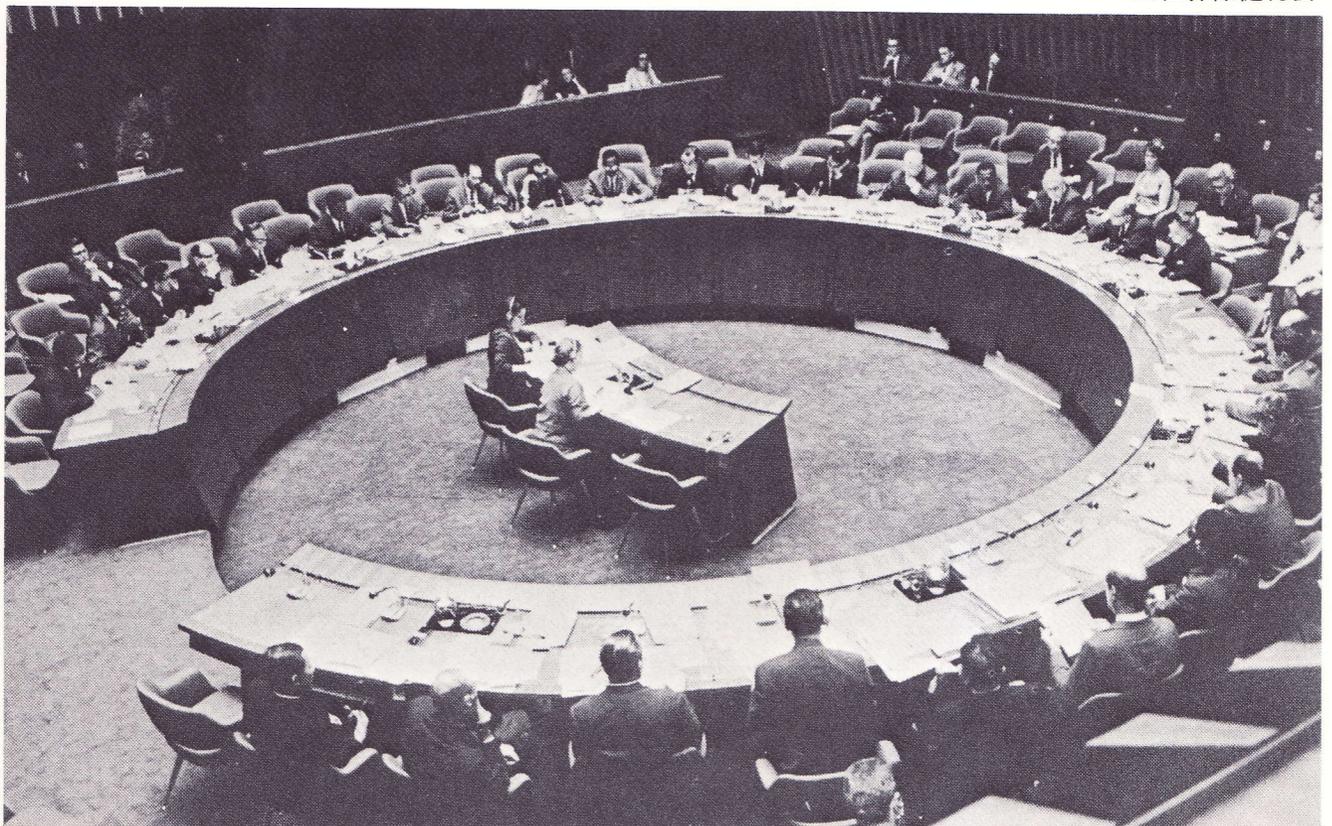


世界保健機関 WHOの誕生

1948年4月7日



▲世界保健総会



▲執行理事

WHOはどうして生れたか

1948年のWHOの創立は、疾病が一つの大陸から他の大陸に伝播することを防止し、また全世界を通じて健康を増進するように、国際的な努力を得るために数世紀に亘って続けてきた努力の頂点でありました。

第二次世界大戦が終る直前の1945年6月に、連合国が「国際連合」という組織をつくって世界の平和を維持しようというのでサンフランシスコ会議を開いた際、ブラジルと中国の代表から、保健衛生の分野でも、国際的な常設機関を設けたらとの提案があり、全会一致でこれを可決しました。

この案は、ロンドンに会合した第一回国際連合経済社会理事会でも採り上げられ、翌年6月19日から7月22日までニューヨークで開かれた国際保健会議で、その具体的な問題が相談されました。

その結果、この機関の名称を世界保健機関（WHO）とすることに決定をみ、その理念、目的、機構、組織、活動範囲等を規定したWHO憲章が作り上げられました。そしてこの会議の最終日に61ヶ国がこの憲章に調印したのです。

しかし、この憲章は国際連合に加盟している26ヶ国の批准を了えてはじめて効力を発生するように、憲章自体の中で定めていたので、それが実現したのは約2年後の1948年4月7日であり、この日に、史上はじめての世界的な保健機関が生まれたのです。

続く6月には、第一回の世界保健総会を開いて、今までの国際連盟の保健部や、パリにあった公衆衛生国際事務局の保健部の財産、事業等の引継ぎを行ない、WHOの事業計画及び予算の採択、加盟国の分担金割当等の事業をとり進めました。こうしてお膳立てが整ってWHOがその事業を開始したのは、1948年9月1日からであります。

世界保健デーは、WHOの憲章が効力を発生して、いわばWHOが誕生した1948年4月7日を記念する日でありまして、今年の4月で24年を経過し、第25年目の歩みを開始しようとしているのであります。

WHOの組織

現在のWHOは、内部機関として世界保健総会、執行理事会および本部事務局の三つがあり、この他に世界の六地域（ヨーロッパ・アフリカ・東地中海・東南アジア・西太平洋・アメリカ）に、それぞれ地域委員会と地域事務局からなる機関を置いています。これらの各機関では、それぞれ次のような仕事をしています。

1. 世界保健総会

加盟国の代表で構成される立法機関で、毎年1回（通常5月）開催され、WHOの方針や計画を決定し、予算を採択し、また執行理事会や事務局の上部機関として、その指導監督に当たります。

2. 執行理事会

保健総会が選出した24の理事国が任命した24人の理事によって構成され、保健総会が決定した政策を実施し、補足していく執行機関で毎年2回（通常1月及び5月）会議を開きま

3. 本部事務局

ジュネーブにおかれ、専門家や事務職員によって、WHOの日々の事務を担当し、またWHOの報告書や予算書を作成して理事会に提出します。

4. 地域委員会および地域事務局

これらは専ら地域的な事項に関する政策を立て、地域内のWHO事業計画予算を作ります。これが総会で認められると、WHOわ各国に与える技術援助予算がきまるわけです。

その地域及び事務局の所在地は、ヨーロッパ地域（コペンハーゲン）、アフリカ地域（ブラザーヴィル）、東地中海地域（アレキサンドリア）、東南アジア地域（ニューデリー）、西太平洋地域（マニラ）、アメリカ地域（ワシントン）となっています。

わが国は、オーストラリア、ニュージーランド、中国、韓国、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、マレーシア、シンガポール、西サモア、フィジーと共に西太平洋地域に属しています。この地域内にボルネオ、サラワク等に領土を有する国々として、フランス、ポルトガル、英国、米国の四ヶ国を加えて、都合17加盟国で西太平洋地域委員会を構成しています。

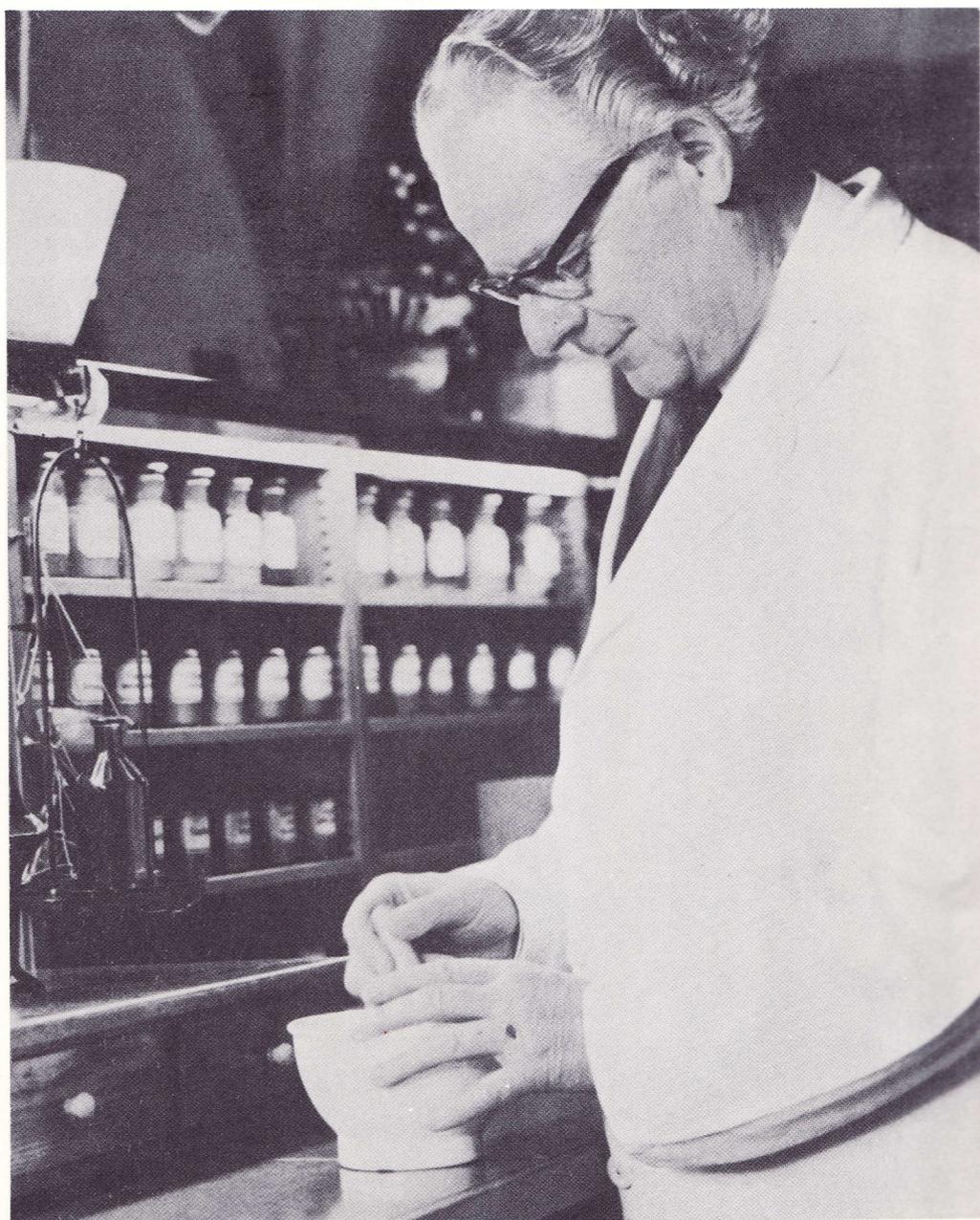
5. 専門家諮問部会および専門委員会

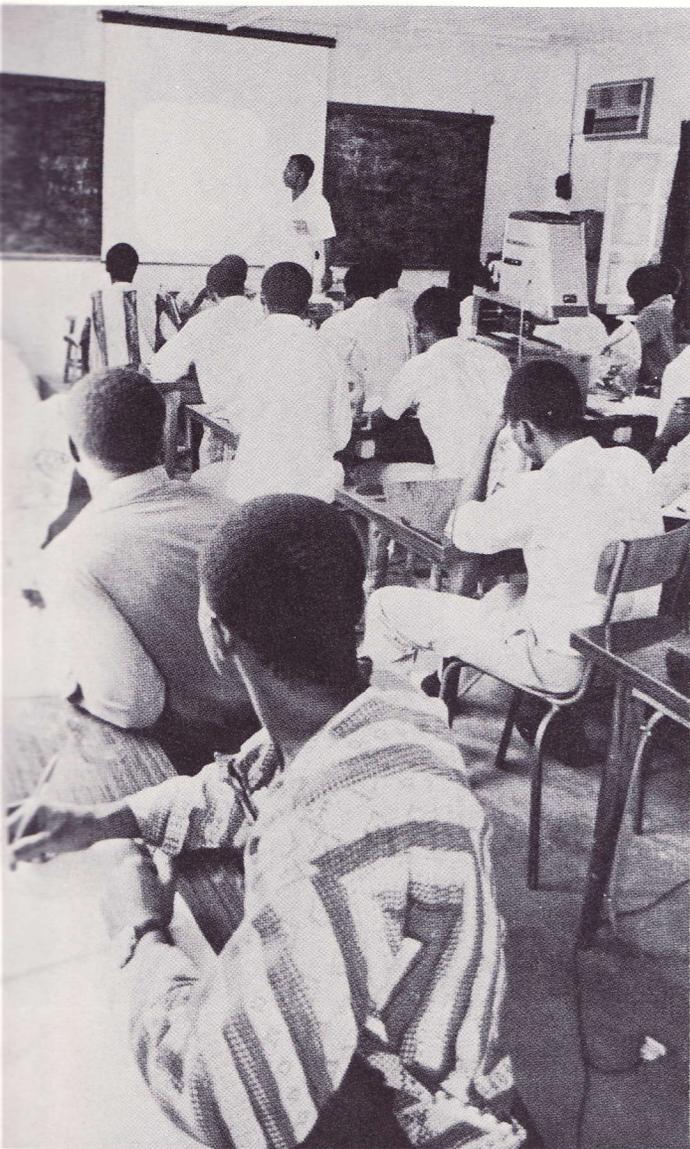
WHO 専門家諮問部会および専門委員会は、WHOの事業を技術的に最も進んだものであるようにするため、また最も新しい研究の成果に基づいてWHOが事を処理し得るために公衆衛生、医療、薬事のあらゆる分野について全世界の最高権威者を厳選して網羅したものであって、現在43の部会があります。この部会のメンバーは、常時には文通でその技術的知識をWHOに提供し、又時にはその中から更に選出されて個々の専門家委員会に出席して討議を行なうこともあります。現在約2,500名以上の世界の専門家が名前をつらねておりま

医薬品の基準 を定める

人びとの疾病を予防し治療するために、重要医薬品について、その純度と効能との国際的基準を定め、現在ペニシリン、ストレプトマイシン、ビタミン類、ワクチン類等の生物学的製剤の国際的基準を定め、また世界各国に共通して用いられる最初の国際的薬局方も完成した。

WHOは
こんな仕事を
しています





(アフリカカメルーンにおける
医学教育風景)

保健衛生マン の教育訓練

医師になるには8～9年かかるが、医学教育については、常に将来性を念頭におかねばならない。WHOは、保健衛生マンの研修を行なうとともに、奨学金制度によって各国の若い技術者に海外研究の便を与えている。

図書出版

WHOでは、統計や研究、報告等に関する約20種の刊行物の出版、文献の目録や抜萃、英仏語以外の国語による報告書の作製、研究論文等の翻訳についての便宜提供、その他内外からの問合せに応じて、必要な資料を提供したり、回答を行なっている。



母と子の
健康を守る

「ママ聞える！」
「あまり大きな声を立てないで……」
回復期の子をいたわる母の愛情



健康の維持
増進をはかる

臨時検診所に群がる原地の人々
(アフリカのある村にて)



日本WHO協会の役割

WHOの目的は既に別項で述べられている如く、「世界のすべての人間が健康であることは、世界の平和と安全の基礎である」との精神に基づいて、国際的な視野から、世界中の人々が手を握ってお互いに協力し、積極的に人類の健康を増進しようということでもあります。

そのためにWHOは単に病気の子防、治療という様な小さな視野からでなく、人類の健康な生活に関係のあるあらゆる事項、即ち広い意味では政治、経済、文化各方面にわたる問題を含めて、人類の健康福祉のため非常に多岐に亘る活動を行なっています。しかしこの活動目標を効果的に達成するためには、WHOの目的や考え方を、国民生活の中に深く浸透させて育てていかなければなりません。そのためには政府機関の努力のみでは到底目的を達成することができず、国民自らがこぞってこれに協力することが必須の要件となります。

社団法人日本WHO協会は、この方面の仕事を推進するため、国が認めた唯一の民間団体として昭和40年4月発足し、以来WHOの精神と目的を国民に浸透させるため、講演会、テレビとラジオ放送、印刷物の発行、小・中学校生徒の懸賞作文コンクール、万博記念メタルの作製等色々と実績を重ねて参りました。

今日私達の健康上問題となることは、次の如く非常に多数に及んでいます。第一に戦後急激に低下した出生率により、比較的短期間に日本の人口に占める老人の割合が急激に増加する。即ち人口老齢化問題。成人病殊に脳卒中・癌・心臓病による死亡の激増、即ち疾病構造の変化。急激な経済成長によって起ったいろいろの歪、即ち人口の都市集中、過密化、住宅難、公害ことに工場煤煙や自動車排気による大気汚染、工場廃液による河川の汚濁、従ってこれによる魚介内の毒物や農薬使用による食品の有毒性問題。また生活環境の悪化と生活構造の複雑化や人間疎外状況が精神不安、精神障害の誘因となること等、人類の肉体的精神的障害を惹起する要因は、社会に満ちあふれています。

これらの問題に対する対策を国や地方自治体がある程度解決したと仮定しても、尚且つ国民のすべてが健康になるものではありません。本来、健康は国民自らの手で守るべきものであります。ことにわが国国民大衆の保健衛生、疾病に対する理解の貧困、医療ならびに医薬品に対する誤った考え方等は誠に民度の低い状態を示すものと言わなければなりません。これらに対する正しい知識をWHO精神を含めて普及徹底することは、本協会の特に取上げねばならない問題でありましょう。

またWHOの専門的活動として、国内及び国外のWHO関係機関や団体と連絡を密にし又WHO関係の刊行物や資料を集め、それらの翻訳や展示会を行わねばなりません。更にまた本協会は各方面のすぐれた専門家を集めいろいろの分野の専門委員会を設置し、健康上有害な問題の解決に対する研究を行ない、学問的な裏付のある正しい知識を国民生活の中に浸透させ、あるいはまたWHOより我が国に派遣された海外専門学者の活動に協力したり、WHO研修生に勉学上の便宜、援助を与える等、政府機関のこの方面に関係のある事業活動に協力、否むしろ卒先して行なう使命を有するものであります。

各自の健康と生活の福祉は個人の基本的な問題であり、これが軽視されるところに人類の不幸の源泉が伏在していると考えられます。みんなが協力して「先ず健康」を守るため力を結集しようとするのが本協会設立の趣旨であり且役割でもあります。

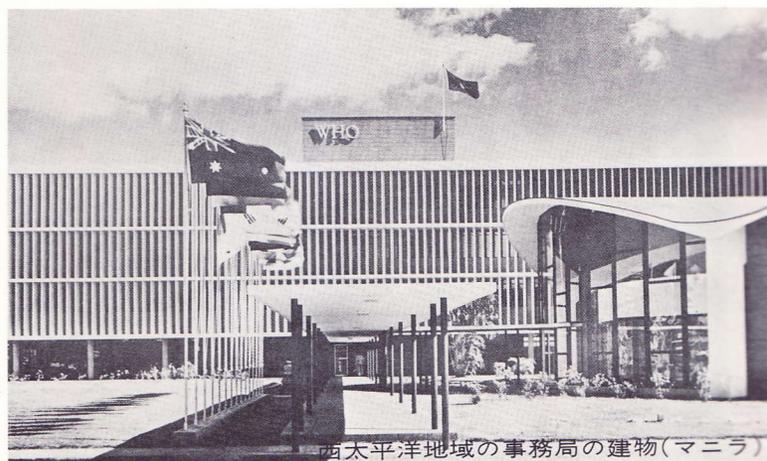
社団法人 日本WHO協会役員名簿

47.5.1 現在(イロハ順○印常務理事)

顧問	前京都大学総長	平 沢 興
会 長	京都商工会議所名誉顧問 日本商工会議所顧問	中野種一郎
副会長	日本医師会会長	武見太郎
副会長	日本学士院会員 京都大学名誉教授	木村 廉
副会長	財団法人今日庵理事長 裏千家家元	千 宗室
副会長	元厚生大臣	黒川武雄
理 事	京都大学工学部教授	岩井重久
理 事	京都府社会保険協会会長	岩井盛次
理 事	神戸大学医学部教授	戸田嘉秋
○理 事	株式会社新装大橋 取締役社長	大橋義一
理 事	日本電池株式会社 取締役社長	岡田辰三
○理 事	川上隆正税理事務所所長	川上隆正
理 事	東京大学医学部教授	勝沼晴雄
理 事	富士技研興業株式会社 代表取締役	金子敏雄
○理 事	大阪医科大学教授	吉田寿三郎
○理 事	婦人経済連合会会長	谷沢悦子
理 事	真鍋島診療所所長	田中勇夫
理 事	財団法人長岡病院専務理事	中野康男
○理 事	産婦人科南部病院院長	南部捨治
理 事	京都産業大学教授	八杉正文
○理 事	歯齒科医院院長	榭 茂光
理 事	京都大学名誉教授	舟岡省五
理 事	古林医院院長	古林兆一
理 事	古橋産業株式会社 代表取締役	古橋忠兵衛
理 事	株式会社ヤクルト本社常務取締役近畿支店支店長	小西真夫
○理 事	財団法人薬師山国島病院 名誉院長高野山大学教授 阿南医院院長	阿部野竜正 阿南義雄
理 事	京都信用金庫理事長	榊田喜四夫
理 事	京都公衆衛生協会会長	三浦運一
理 事	京都大学教授	宮田尚之
理 事	株式会社ヤクルト本社 研 究 所 所 長	代田 稔
理 事	株式会社近畿放送常務取締役 会社	白石英司
○理 事	和歌山医科大学教授	白川 充
○理 事	財団法人川越病院院長	清水三郎
監 事	京都商工会議所専務理事	島津邦夫

WHO事務局と その加盟国

1. WHOの加盟国は下記の通りです。
2. WHOの本部はスイス国ジュネーブにあり、現在ブラジルのM.G.カンドウ博士が事務局長です。
3. 日本が属しているWHO西太平洋地域事務局はフィリピンのマニラにあり、現在フィリピンのF.J.テイ博士が地域事務局長です。
4. WHOに関することについては厚生省の大臣官房連絡参事官室に御照会下さい。

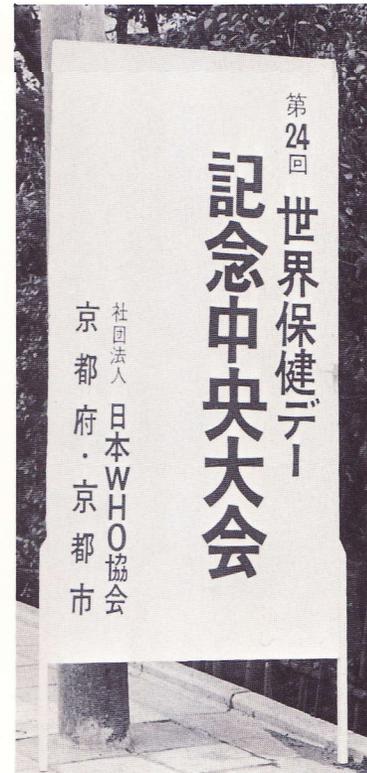


西太平洋地域の事務局の建物(マニラ)



日本WHO協会の あゆみ

- 6・4・10 第23回世界保健デー記念中央大会式典と園遊会および近畿2府4県中学校生徒作文コンクールの入賞者表彰式を京都二条城清流園にて開催。
- 5・31 広報誌「目でみるWHO」第4号発行。
- 6・6 昭和46年度理事会・通常総会を京都ホテルにて開催。
- 6・8 近畿2府4県中学校生徒入賞者の作文集「健康と公害」を発行。



- 7・1 会員獲得のため、入会勧誘状「ご入会のおすすめ」を印刷、各方面に郵送。
- 10・7 喫煙と健康・糖尿病の演題で講演会を京都商工会議所で開催。
- 1・10 西日本地域の中学校生徒を対象に作文募集。作文テーマ「食べ物と健康」
- 1・23 会員相互の親睦を深め、協会発展を計り、新年会を京都ホテルで開催。
- 3・13 西日本地域中学校生徒作文コンクールの入賞について、最終選出審査を協会事務局にて実施。

- 47・3・29 西日本地域中学校生徒作文コンクール入賞者氏名と、特選作文を朝日新聞紙上に発表掲載。
- 3・31 喫煙の有害性を周知徹底し、啓蒙するため小冊子「タバコの害を正しく見つめよう」を発行。
- 4・9 第24回世界保健デー大会式典と西日本中学校生徒作文コンクールの特選生徒の表彰式を京都岡崎つる家にて開催。併せて会食も行なう。



西日本中学校生徒
作文 **食と健康**
特選

神戸市立湊川中学校
二年 上村繁美

京都市立下鴨中学校
三年 川勝陽一

今治市立美須賀中学校
二年 白石朱美

兵庫県村岡聖免塚中学校
二年 田丸増二

京都府和智立和智中学校
三年 松山文子

▲木村副会長より
作文特選のトロフィー
を受ける、下鴨中学校
川勝陽一君



喫煙と健康
二十日ネズミ10匹が
実験によるとタバコ1本で死んだ



社団法人・日本WHO協会定款(抜萃)

第1章 名称及び事務所

(名称)

第1条 本会は社団法人日本WHO協会という。

(事務所)

第2条 本会は事務所を京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都商工会議所ビル四階に置く。

2 本会は必要に応じ、理事会の議決により東京その他必要の地に支部を置くことができる。

3 支部に関し必要な事項は、理事会で決める。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本会は、世界保健機関(以下WHOと略称する)憲章の精神を普及徹底し、その事業の目的達成に協力し、もって我国及び海外諸国の国民の健康増進に協力することを目的とす。

(事業)

第4条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

一、WHOの事業目的の国内への宣伝普及並びにWHOがその事業目的達成に必要とする援助及び協力。

二、海外諸国における保健衛生関係団体、関係諸機関並びに個人との連絡及び協力。

三、国内における保健衛生活動に貢献している学術及び専門団体相互間の協力の促進と技術援助

四、我国の保健衛生事業に関する実状及び政策の海外への紹介

五、WHO関係出版物の刊行及び図書の紹介ならびに本会機関紙の発行

六、WHO及び海外諸国より我国に派遣される派遣団、留学生及び個人に対する便宜の供与及び援助

七、海外諸国における保健衛生事業に関する資料の蒐集及び調査研究

八、官庁及び保健衛生関係団体の委託による調査

九、保健衛生用資材の国際需要の調査

十、その他本会の目的達成に必要な事業

第3章 会 員

(会員及び入会手続)

第5条 本会は、本会の趣旨に賛成し、本会の事業に協力する者をもって会員とする。

2 本会に入会しようとする者は、理事1名以上の推薦により所定の様式によって本会に申し出で会長の承認を受けなければならない。但し第6条第4号に規定する名誉会員についてはこの限りでない。

(会員の種類)

第6条 本会の会員は次の四種とし、民法上の社員とする。

一、正会員 本会の活動を積極的に支持し協力する個人

二、維持会員 維持会費を負担する個人又は法人

三、特別会員 特別会費を負担する個人又は法人

四、名誉会員 本会に特に功労のあった者又は学識経験者で総会が推薦する者

(会費の額)

第7条 本会の会員は次に掲げる会費を、

1口以上負担するものとする。

但し名誉会員はこの限りでない。

一、正会員 個人 年額 1,000円

二、維持会員 個人 年額 2,000円

法人 年額 5,000円

三、特別会員 個人 年額 10,000円

法人 年額 50,000円

2 既納の会費は理由の如何を問わず返還しない。



▲日本WHO協会(京都商工会議所内)

一部“WORLD HEALTH”その他外国資料のほか、財団法人厚生問題研究会の資料を転載させていただきました。また京都新聞社からとくに写真の提供を受けたことを厚く感謝いたします。

目で見えるWHO No. 5

発行 昭和47年5月

発行者 社団法人 日本WHO協会
京都市中京区烏丸夷川上ル
TEL 京都(075)211-4905

発行人 中野種一郎

製作 はいづか印刷
京都市下京区花屋町通西洞院東入
TEL 京都(075)341-0131(代)